

子どもの住生活力を育むための 住生活文化の継承と地域資源の活用に関する研究 －住生活文化継承の実態調査と映像コンテンツの収集－

最終更新日：令和2年4月17日

【プロジェクト代表者】
家政教育ユニット
教授
鈴木 佐代

キーワード

住教育、住生活文化、日本家屋、映像コンテンツ、音、地域資源

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

本研究は、次世代をになう子どもたちに日本の伝統的な住生活文化を伝えるための住教育の提案を目指しています。異文化理解や持続可能な暮らしの実現に向けて、伝統的な生活文化の理解や継承の重要性が再認識されていますが、住宅の洋風化やライフスタイルの変化とともに日本の伝統的な住まいや暮らしは失われつつあります。

本プロジェクトでは、和の空間や生活を体験的に学ぶことができる住教育の授業や教材の開発を目的として、住生活文化の継承実態を把握するアンケート調査と、教材の素材となる映像コンテンツの収集を行いました。アンケート調査は、福岡県内の中学生、高校生、大学生を対象に実施し、日本家屋に関する知識、伝統的な暮らしの経験、住生活文化に対する興味・関心等を把握しました。また、映像コンテンツの収集は、鹿児島県出水市の出水麓武家屋敷群において実施し、日本家屋の特徴である建具や、建具の開閉による空間の可変性、室内と屋外の自然（庭）とのつながり方などを理解できる動画を撮影しました。今後、アンケート調査の結果を踏まえて、小・中・高等学校の各段階に応じて教材化し、授業実践等を通して作成した教材の評価を行う予定です。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

(1)福岡県内の中学生、高校生、大学生を対象に実施した住生活文化の継承実態調査からは、福岡県内の若い世代の、伝統的な住生活文化に対する知識、興味・関心、体験の実態を知ることができ、住教育の授業や教材開発を行う際の基礎的データとして利用できます。

(2)武家屋敷で撮影した住生活文化の映像コンテンツは、今後、編集し教材化することにより、写真（静止画）と文章による説明では伝えることが難しい、季節の音や日本家屋の空間の可変性、自然を利用した暮らし方等、日本の住生活文化をより深く理解できる住教育教材として活用することができます。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成31年度科研費獲得推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

家政教育ユニット・教授・鈴木佐代：研究総括、アンケート調査の企画・実施・分析、映像コンテンツの企画・収集
家政教育ユニット・准教授・豊田晴一：アンケート調査助言、映像コンテンツの編集および機器類の整備
大分大学大学院・客員研究員・豊増美喜：アンケート調査の企画・実施および映像コンテンツの収集（音の生活文化に関する内容）